

第2回学校運営協議会 議事録

校名	府立住吉高等学校
校長名	岡崎 守夫

開催日時	令和2年11月5日(水)15:30~17:00
開催場所	府立住吉高等学校 1階 会議室
出席者(委員)	大塚耕司会長、森田英嗣委員、森本哲弘委員、 河野豊委員、劉耕助委員
出席者(学校)	岡崎守夫(校長)、寺田明彦(教頭)、世登武(事務長)、 加藤智成(首席)、斎藤治(国際文化科長代理)、 藤井千恵子(国際部長)、大門直行(総合科学科長・SSH 主担)、 三石貴之(進路指導主事)、松本雅由(生徒指導主事)

1. 校長挨拶

ようやく対面での協議会が可能となった。この間、学園祭などの行事の重要性を痛感している。体育祭が中止になったが、学園祭の前日に3年生有志で自主的に運動会を行っていた。スタディツアーで台湾に行く予定だったが、沖縄に行き先を変えて現在計画を進めている。

2. 今年度の取組みについて

(1) 学校経営計画及び学校評価について

- 臨時休業期間はあったが、授業日数は確保しているため、公開授業、研究協議を年間6回以上行うという計画は変わっていない。
- 大学入学共通テスト受験予定者は215名で、計画の200名を超えている。
- SSHの国際共同研究を両科で推進することについては、海外姉妹校と準備を進めている。今年度は、第3期の3年目で中間評価を受ける年度になっている。先日ヒアリングがあり、やや厳しい評価をいただいた。
- 「住高支援ネットワーク」を、インターネットを通して課題研究に活用する方法をこれから構築していく。
- 学校説明会は、8月に来場者を分散する形で行った。今年度第2回の学校説明会も、同様の形を考えている。

(2) 国際文化科および国際交流の取組み

- TOEFLの授業は、水曜7限(90分)にティームティーチングで年間20回実施予定。今年度は、例年よりも遅く7月29日から開始。規定回数を確保するためのスケジュール調整が難しくなっている。1年生は希望者多数(50名)のため20名を

選抜。2年生は18名受講。

- TOEIC 土曜講習は、1年生38名を対象に、90分10回を2講座開講している。(例年90分20回)
- 例年実施している留学生の受入れや海外研修など、多くの取組みが今年度は実施不可能な状態となっている。人と直接会って交流していく中で学んでいく事業だと理解しており、非常に苦労している。そのような中で新しい取組みも必要と考え、先日、大阪大学の留学生とのオンラインでの交流会を行った。実際の対面とは違うが、顔を見ながらの交流を生徒たちは楽しんでた。

(3) 総合科学科及びSSHの取組み

- 「課題研究の質の向上」、「英語力の育成」、「成果の評価、普及」に関して、一定の成果が上がっており、今後の見通しもついている。具体的には、英語力の育成に関しては、海外姉妹校向けに学校紹介動画を作成している。また、国際共同研究に向けて、スマホのアプリを使った連携を考えている。成果の評価、普及に関しては、総合科学科に留まらず国際文化科にも研究の手法を広げる取組みを始めている。他校にも広げるために、HP上で本校の研究手法を公開する準備を進めている。
- 「外部連携の強化」に関して、成果はまだ上がっていないが、今後の見通しがついている。効果的な住高支援ネットワークの活用方法を考える中で、アプリを利用した簡便な手法がとれないか検討している。

(4) 進路指導状況

- 「セルフチェックシート」という学習計画及び振り返りのシートなどを活用しながら、自主学習の定着や学習の振り返りなどができるように指導している。
- 国公立大学への進学希望を諦めずに最後まで攻める姿勢で挑戦できるよう指導しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、難しい状況である。
- 大学入試が新しくなり、自己分析などを生徒が書く機会を増やしている。しかし、生徒は書くことがあるのに書けないことが多い。ワークシートなどを利用して書く力をつけたい。

(5) 生活指導について

- 遅刻について、昨年度が年間2000回を下回る目標で、最終は2020回程だった。今年度は1500回以下を目標としている。前期終了時点では731回で、登校日数あたりでは昨年度と比べてほぼ同数となっている。
- 自転車などの交通安全指導を毎年行っているが、今年度は警察がどの学校にも訪問していないようである。

3. 質疑・協議 (Q 委員の質問 C 委員のコメント → 本校教員の回答・コメント)

- Q オンラインでの国際交流は設備が足りないと聞いたが、具体的に何が足りなかったのか。
- 普通教室でしかWi-Fiが設定できない。また、オンライン会議ソフトの有料版が必要で、その支払いがクレジットカードのみだったが、特例で認めてもらった。
- C 後援会の予算は、生徒のためのものなので、是非利用してもらいたい。
- C PTAから環境面について。トイレの臭い、食堂の暑さ寒さについて問題があると聞いている。今年度は予算が余っているので活用してもらいたい。
- Q SSHに関して。課題研究のテーマ設定が高校生には難しい。大学院生の力を借りるなどはどうか。OBなど人脈があると思う。
- 大学教員の話聞くことはあるが、年齢が近いほうが確かによいかも。かもしれない。
- Q 新型コロナウイルス感染症の影響で経済的にしんどい生徒はいないか。大学ではいる。
- 現在のところ、特に聞いていない。
- C 高校では府が授業料を出していることもあるのでは。
- Q 学習指導要領が大きく変わる。今回の改定は大きい。何ができるようになるかが問われている。授業づくりが大変と思われる。評価方法もそれに伴い大きく変わる。
- 指導と評価の一体化といわれて久しい。観点別評価が令和4年度本格実施で、来年度が試行となっている。
- C 今までとは違うことを考えないといけないのかなと思う。質的向上についても、どうなったら質的向上といえるのかなどが問われる。
- C アメリカには学習指導要領にあたるものがないが、図書館教育において、日本の学習指導要領が参考にされた。参考にはされたが、全く違うものを作った。そこでは主語が学習者となっている。今、日本は逆輸入して主語が学習者の学習指導要領になっている。SSHの評価観点なども、主語を学習者とするとういかもしれない。
- Q 共通テストの第2日程を受験する生徒数は。
- 本校ではない。
- C 全国的に早く大学合格を決めたい生徒が多い。浪人が減っているのでチャレンジのチャンスだが、現役生からすると自信がない。最後までチャレンジした方がよい。
- 「つらぬく指導」が十分にはできていない。「ここじゃないと嫌だ」という生徒が少なく、ブレやすい。保護者が情報を得て子供に無理させないことが多そう。
- C 三者面談で、親に「ここがいいんだ」と生徒が言えたらよいが、どこでもなかなかできていない。キャリアパスポートを早くから書かせている学校はある。進路選択は永遠のテーマ。大学のアドミッションポリシー(AP)がしっかりしてきている。大学別に比べるなども今後よいかも。同じ学部であっても「私はこの大学の〇〇学部がいい」となっていけば。

- Q 進路に関して。塾や予備校との関係は。
→「どう生きていくか」を指導するのが進路指導だと考えている。大手予備校とは情報交換もしている。
- C 面接で AP を読んだかを聞くが、読んでいない生徒が多い。色々と使えると思う。入るとき、在学中、出るときをイメージする。思っていたのと違うとならないように。現状では活用は少ないと思う。
- C 私立では増えていると聞いている。
→一般受験をする生徒は読んでいない。面接対策として読んでいる。
- C 高校生に内容がわかるかどうかも問題。
- C AP と受験科目も大学からのメッセージ。
- C 大学ではディプロマポリシーから設計している。そう見てもらえれば。
- Q 生活指導について。いじめや暴力などはないか。
→暴力に関する事案は、ここ数年ない。いじめに関しては、SNS に関する事案がいくつかあった。
- Q いじめがあまりないのは、何かやっているからか。
→普段からの担任などからの声掛け。優しい生徒が多いので、生徒同士の関わりも影響していると思われる。

4. 今後の予定

第3回は、令和3年2月下旬の予定。